



ひがし風



『持続可能な社会をめざして』

校長 伊藤 誠

校庭の大げやの若葉が日増しに緑色を濃くし、爽やかな風に揺れている風景に、心が洗われる今日この頃です。四季折々の魅力があるのですが、特にこの時期はその素晴らしさを改めて実感いたします。この東小のシンボルがげやきっ子の「心身の健康」に大きく寄与していることは言うまでもありません。今後もずっと変わることなく、子どもたちの成長を見守り続けてくれると確信しております。

さて、4月13日に大阪・関西万博が開幕しました。10月13日までと比較的会期が長いこともあり、ゴールデンウィークや夏休み等に計画を立てている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。万国博覧会というと、科学技術の進歩を発信する場で、1970年の大阪万博ではワイヤレステレフォン、電気自動車、歩く歩道などの技術が展示され、今回は空飛ぶクルマをはじめ最先端技術を体感できるとのことですが、2025年大阪・関西万博がめざすものは、持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献です。



世界は今、大きな変化を迎え、生活を劇的に変化させる革新的な技術が進歩しています。しかし一方で、先進国と発展途上国との生活環境の格差は広がっています。万博のテーマである、「いのち輝く未来社会のデザイン」には、世界中すべての人にとって「幸せな生き方とは何か」を考え、「すべてのいのち輝く未来社会」のために多様な考えを出し合ったり、解決方法を見つけたりしてほしいという思いが込められているそうです。

「SDGs」は、2015年に開催された国連サミットで採択され、世界共通の課題を解決し、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現のため、2030年を年限とした国際目標です。残り5年となる2025年は、実現に向けた取組を加速させるために極めて重要な年です。その年に開催される大阪・関西万博、世界中から人々が集まり、未来社会を創るアイデアを交換したり、新しいアイデアを生み出したりすることで、様々な「SDGs」の取組が少しでも早く目標達成に近づくことを目指しているのです。

この目標達成の鍵となるのが、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）です。学習指導要領にも「これからの学校には、一人一人の児童が、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示されています。

これまでも環境や食料問題等、「SDGs」に関連した学習を行ってきておりますが、今後も、現代社会における世界の様々な問題に目を向け、自らの問題として主体的に捉え、その課題解決を図るような態度の育成に努めてまいります。